

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08年11月

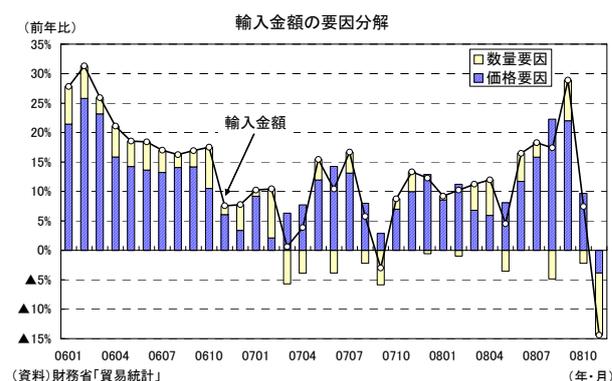
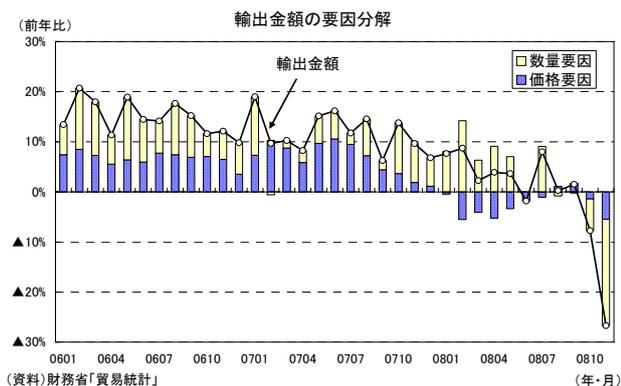
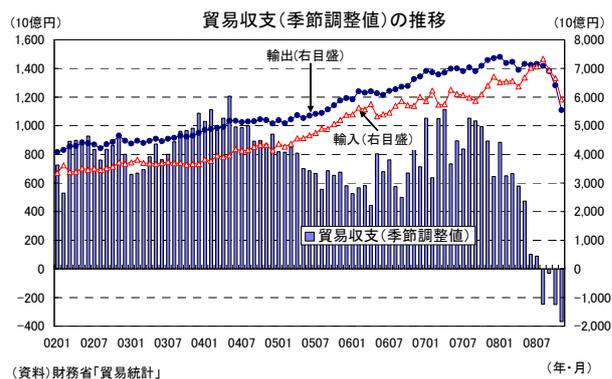
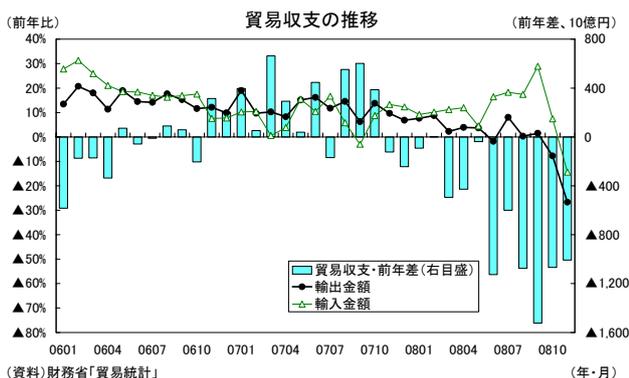
～輸出の記録的な落ち込みから貿易赤字が継続

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は4ヵ月連続の赤字

財務省が12月22日に公表した貿易統計によると、11月の貿易収支は▲2,234億円の赤字となり、ほぼ事前の市場予想(ロイター集計:▲2,575億円、当社予想は1,430億円)通りの結果となった。輸出入ともに減少したが、輸出の減少幅が記録的な大きさとなったことから、2ヵ月連続で貿易赤字となった。季節調整済の貿易収支は▲3,676億円と4ヵ月連続の赤字となった。



円高の進展に伴い輸出価格が前年比▲6.1% (10月:同▲1.5%) となったことに加え、海外経済の急速な悪化を反映し、輸出数量が前年比▲21.9% (10月:同▲6.4%) とマイナス幅を大きく拡大させたため、輸出金額は前年比▲26.7% (10月:同▲7.8%) の大幅減少となった。輸出金額の前年比が20%を超えるマイナスとなったのは、1986年8月(前年比▲20.9%) 以来のことである。

原油価格の急落と円高の進展に伴い、輸入価格が前年比▲4.1%（10月：同9.8%）と04年4月以来のマイナスとなる中、内需低迷を反映し輸入数量が前年比▲10.8%（10月：同▲2.1%）と二桁の減少となったため、輸入金額は前年比▲14.4%（10月：同7.4%）の大幅減少となった。

原油価格急落に伴う輸入の減少は貿易収支の改善要因だが、海外経済の悪化を主因とした輸出の急速な落ち込みの影響がそれを大きく上回っている。当面は貿易赤字が定着する可能性が出てきた。

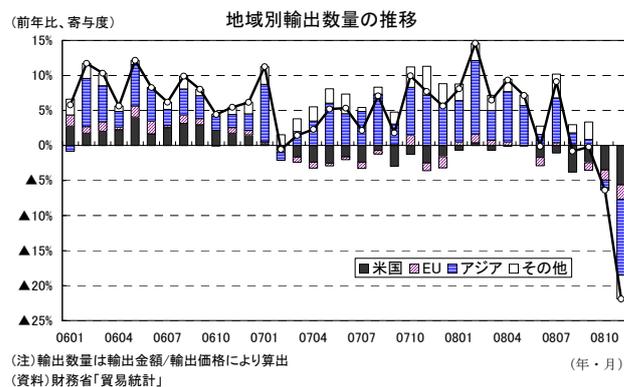
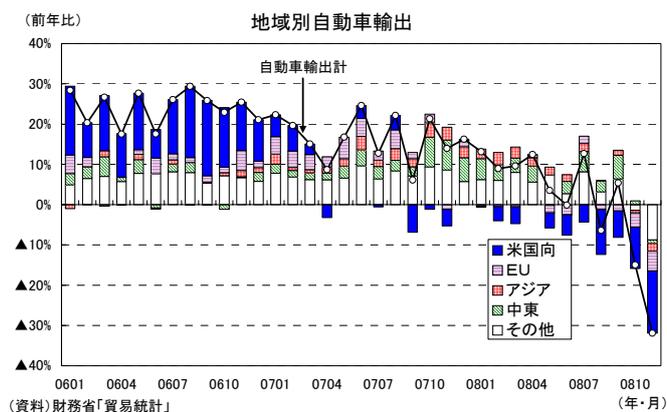
なお、11月の貿易統計では、輸出入ともに大幅に減少したが、今年の11月は休日（土日・祝日）の数が昨年よりも3日多く、通関日数が少なかったことも影響している可能性があることには留意する必要がある。

2. 米国、EU、アジア向け輸出がいずれも前年比で二桁減

輸出の内訳では、自動車が生産が前年比▲31.9%（10月：同▲15.0%）と急速に落ち込んだ。米国向け（前年比▲44.0%）、EU向け（同▲37.2%）、アジア向け（同▲23.3%）が大幅に減少したことに加え、これまで増加を続けてきた中東向け（同▲6.2%）、ロシア向け（同▲2.9%）も減少に転じた。

11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲28.5%（10月：同▲16.9%）、EU向けが前年比▲16.7%（10月：同▲10.4%）、アジア向けが前年比▲21.4%（10月：同▲2.3%）といずれも前年比で二桁の減少となった。また、当研究所で試算している主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向けの輸出の寄与度は前年比▲3.4%（10月：同▲0.3%）となった。新興国を中心とした「その他地域」向けの高い伸びが、米国向けの落ち込みをカバーするという構図は完全に崩れてしまった。

10月以降の輸出の急速な落ち込みは、9月中旬のリーマン・ブラザーズ破綻以降の金融危機の影響が早くも世界経済全体に広がっていることを反映したものである。GDP統計の外需は、4-6月期、7-9月期とすでに成長率の押し下げ要因となっているが、10-12月期は外需のマイナス幅が一気に拡大する可能性が高くなってきた。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保障するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。